



●とりあえず休校へ (西田敬一)

開校17年目を終える今年7月で、サーカス学校を一時、休校にする予定です。

まずひとつめの理由としては慢性的な資金不足があります。会費、ご寄付、そして在校生(現在は3名)の授業料等では、今後運営がますます厳しくなることでしょう。ふたつめには、ナー ज्या先生が帰国を希望しているということが大きいです。在校している生徒、来年からの入学を希望している高校生、あるいは今入学しようかなと検討している人々には大変申し訳ないと心が痛むのですが、現状、これらの問題を解決できる手立てがなく、休校を選ばざるをえない状況です。

17年間の間に、福島第一原発事故による放射能の影響を避けるために行った休校(2011年9月から翌年3月まで)につぐ2回目の休校となりますが、今回は再開の目処はたっていません。しかし、現在の授業を行っている旧沢入小学校の体育館、校舎は今後もしばらく借りておくつもりです。

この17年間に、60名以上の生徒がサーカス学校で学びました。途中でやめた人もいますが、海外で活躍するパフォーマーや国内のさまざまな大道芸フェスティバル、遊園地やイベントで拍手喝采を浴びているパフォーマーが大勢育ちました。サーカスは諦めたものの、サーカスの世界を学ぶことで自分の生きる道を見つけることができたというメールを送ってきた人もいます。

この17年間で振り返ると様々なことが思い出されます。開校前に地元の方々に説得するため交渉を行ったことや数年間続けたカンボジアのNGO団体が運営するサーカスグループ”Phare Ponleu Selpak”(ファーポルセルパク)との交流などが印象的です。そしてなによりも、17年もの間、生徒たちを情熱的に指導して下さったティシエンコ・ナジェージダ(ナー ज्या)先生との交流、いくつもの出来事が脳裏を去来します。

ナー ज्या先生は当初、このサーカス学校にくる若者たちがサーカス技を身につけるためにはどんな身体が必要かということ、そもそもサーカスについて知らずに入学してくることが信じられなかったようです。確かに、入学してくる多くの若者はそれぞれがサーカスについてイメージを持っているものの、ある程度練習すれば、簡単に空中を飛んだりバランス感覚が身についたりすると思っ てやっ てきます。ナー ज्या先生の厳しい練習が始まると逃げだしてしまふ者もいる一方で、その練習に耐えた者たちは立派なパフォーマーとして巣立っていきました。ナー ज्या先生にはいくら感謝しても感謝しきれないということです。

休校にした後も、練習場である体育館などをしばらく確保しておきたいと考えているのは、現在同様、卒業生などがある期間、集中的に練習しに来ると思われるからです。また、僕ら自身がサーカスショーや演劇、ダンスなどの作品を作ることになれば、その稽古場としての利用価値が大きいからです。もちろん、どこかの集団、あるいは個人やグループが何日か泊まりがけで稽古したいのであれば、お貸しできるのではないかと考えています。

サーカス学校の再開については、資金的な面に加えて指導して下さる先生が群馬の山奥の沢入へ住んで下さるかという問題があります。この2つの難題を解決するためには相当にエネルギッシュな活動が求められると思うのですが、さて。

再開について諦めているわけではありません。ひょっとすると別の場所で種まきのような活動をしながら、再開の糸口をつかむ活動を始めるかもしれません。私が尊敬する大先輩からは、潔くスパッとやめたほうがいいとお手紙をいただいたこともあります。未練は持つなということです。未練タラタラというわけではありませんが、サーカス学校の運営とそれによるさまざまな一連の出来事は、私にはサーカス団に所属し公演を続けていくとい



うサーカス生活そのものと変わらないものだったので、今回の休校はいわば長い休演中、あるいは再旗揚げの準備をしているサーカス団の姿のようなものと考えています。もしもサーカス学校休校から廃校となっても、それがぼくのサーカス生活の、終わりのないサーカス人生の出来事のひとつと考えることができるのではないかと楽観的に考えています。

とはいえ、休校後にやってくるこれまでとは異なる時間の流れの中で何をしたらよいか。少なくとも体育館に通い、生徒たちの練習を見守ることが軸となっていたこれまでの日常とは異なる時間の流れの中に、何か新しい活動の軸を作ることが必要になるに違いありません。

● 沢入国際サーカス学校 夏の発表会日程

2018年7月21日(土)・22日(日) 2日間とも13:30開演

会場；沢入国際サーカス学校 群馬県みどり市東町沢入491

皆様お誘い合わせのうえ足をお運びいただけたら嬉しいです。

尚、今回は卒業生や出身生にも出演を呼びかけています。

●ナージャ先生のWS 参加者募集中

ということで毎年開催してきたWSも今回で最後となるかもしれません。ナージャ先生からご指導いただける貴重な機会ですので、参加をご希望の方はどうかお見逃しなく！

スポーツアクロの元世界チャンピオンであるウクライナ出身のナージャ先生より、マット運動、筋トレ、ストレッチなどあらゆるサーカス芸にとって基礎となるからだづくりを指導していただきます。また、興味のあるサーカス芸にも挑戦していただけます。山の中で、身体づくりに向き合い、ひたすら練習に没頭する日々を送りませんか。

◆期間； 2018年5月21日（月）～25日（金） ※全日程参加できない方は、希望期間を申込書にお書きください。

◆スケジュール

- 5月21日（月） サーカス資料館に集合・オリエンテーション
車で現地集合の方 集合時間 17時30分
電車でお越しの方 わたらせ溪谷鉄道『神戸（ごうど）駅』17:37着
- 5月22日（火）～25日（金） 9時30分～17時 練習（12:00～13:30 昼休み）
- 5月25日（金） 練習終わり次第、各自解散

◆場所； 練習場所 沢入国際サーカス学校 体育館 <http://www.circus-mura.net/csindex2.html>
〒376-0301 群馬県みどり市東町沢入491 旧沢入小学校体育館
宿泊場所 サーカス資料館 http://www.circus-mura.net/index_siryo.html
〒376-0303 群馬県みどり市東町座間41-1

◆練習可能な演目；トランポリン、空中芸（ティッシュ、リング）、ジャグリング、ローラーボーラー、ハンド・トゥ・ハンド、ジャーマンホイール、アクロバット、基礎の体づくり（柔軟・筋トレ・倒立・マット運動）など

◆参加費；全期間参加の場合；35,000円（1日単位：8,000円）

（ワークショップ費・宿泊費・朝&晩の食事代・保険込。但し、昼食は各自購入）

◆持ち物；トレーニング着・トレーニング靴・常備薬・洗面用具・タオルなど

※昼は暖かい（暑い）ですが朝晩は冷えることがありますので、半そでTシャツに長袖のパーカーを羽織るなど、体温調整しやすい服を持ってくるとよいです。また、学校や宿泊施設は山の中にあり、まわりに店やコンビニ等はあまりありません。

◆募集人数；約10名

◆申し込み先；NPO 法人国際サーカス村協会<東京事務局>

TEL03-3403-0561（10:00-17:00 担当；長屋） メールアドレス a-nagaya@accircus.com



● サーカス学校卒業生大活躍 (西田敬一)

去る4月14日(土)、15日(日)に行われた第13回ヨコハマ大道芸に、サーカス学校卒業生が何人も参加し、会場を盛り上げたようだ。いわば卒業生の大先輩である一輪車コンビ”Witty Look”の智春、アクロバットコンビ”Duo AB”の真志はクラウンのサクノキと組んで新しいショーを作り、ローラーバランスの健太は現在所属しているクロワッサンサーカスのメンバーとして参加した。ソロでは、倒立とハットジャグリングの谷口界がシルホイールの新技を見せ、ビッグボールジャグリングとマウスバランスなど多芸の吉川健斗がショーを披露していた。みんな、それぞれのポイントで拍手喝采を浴びていた。これだけ多くのサーカス学校出身のパフォーマーがひとつのフェスティバルに参加するのは多分初めてなので、気になるというかみんなうまくやってくれるかな、お客の反応は、実行委員会の方々の感想はと気をもんだが、みんな評判上々のようでひと安心している。

21日の昼過ぎから22日にかけて雨が降り風も強かったためお客の出足は今ひとつだったようだが、それにもかかわらず大道芸ファンはお目当のパフォーマーのポイントに陣取り、熱い声援を送っていた。会場が広くてあちこち見て回るのは大変だが、それぞれの会場に異なる雰囲気があってお客の反応が違うのを楽しむことができるという良さもある。それが横浜大道芸の大きな魅力のひとつかもしれない。



↑写真(左)クロワッサンサーカスのショーでローラーバランスを披露する健太

写真(右)昨年12月に卒業した吉川健斗。おでこの上に長い棒を乗せてバランスをとり、ボールを投げ上げて、棒の先端についているカップに入れるという難易度の高い技で観客を喜ばせていた。

横浜

2018年 (平成30年)
4月15日
 日曜日

朝日新聞

■ヨコハマ大道芸に歓声
 横浜市のみなとみらい21地区やJR関内駅周辺など4エリアで14日、大道芸人たちがパフォーマンスを披露する「ヨコハマ大道芸2018」が始まった。パントマイムやジャグリング、2本のロープを使った縄跳びなどの華麗な技に、道行く人たちが足を止めて見入った。15日まで、JR石川町駅近くでは、大きな一輪車に乗った大道芸人が、ビル3階ほどの高さの棒を頭に懸けてバランスを取ったまま、棒の先についたカップに球を投げ入れる技を披露。さらに、一輪車に乗って複数のボールでジャグリングするなどし、見物客から拍手や歓声が上がっていた。15日も午前11時半から計60組1111人の大道芸人が登場する予定。



●国際クラウン・マイムフェスティバル『コメディアーダ 2018』（大島幹雄）



↑『コメディアーダ 2018』最終公演の後

今年もオデッサで3月27日から4月2日まで開催された「コメディアーダ」という国際クラウン・マイムフェスティバルの審査員として参加した。去年初めて参加して、ちょっと忘れていたクラウン芸の素晴らしさと、それを支えるフェスティバルの関係者と観客たちの熱い思いに触れて、かなり興奮してしまった。（詳しくはACCのホームページに掲載されている「コメディアーダに参加して」をご覧ください。）こういうフェスティバルに日本から参加するクラウンが出たらいいなと思って、映像を三雲いおりくんに見てもらったら、「こんな人たちまだいるんですね、いいですね、みんな馬鹿になりきっていて。自分も出たいです」と言ってくれた。招待とは言っても参加者は出演者も審査員も交通費は自費となるので負担も多いのだが、三雲くんはぜひにということで今回参加してくれた。

フェスティバルは27日から始まっていたが、コンテスト部門は30日と31日ということで、我々は3月29日にオデッサ入りした。去年と比べると寒い日が続いた。我々が着く2日前は雪が降ったという。着いた日の夜に、以前この大会でグランプリをとったウクライナのマイム集団 QuartetDEKRU、今回のコンテストの参加者 Jelf Hess と去年も参加していたキエフのサーカス学校の4人組クラウン 4Matics によるクラウンショーを見ることができた。マイムの QuartetDEKRU のショーは素晴らしかった。マイムだけでシンプルな話を見せていく。変にストーリーでこらずに、マイムで表現する。それがかえって新鮮だった。

30日が”プログラムA”という、コンテスト参加者とゲストが一緒になってのショー。たっぷり3時間あった。今回三雲くんは「酔っ払い」というネタをもってきた。これは音楽なし、照明転換もないというシンプルな作品なので、リハも簡単にすんだ。とは言っても舞台監督不在でのリハ、ふつうの日本人だったら、何この段取りの悪さは、とかなりイラつくと思うのだが三雲くんは冷静に対応していた。

そして本番。三雲くんは5番目に出演、酔っ払いを演じきった。ネタで勝負というよりは演技で勝負ということでこの作品を選んだが、100%の実力を出し切ったとあっていいだろう。特に後半はまさに渾身の演技、30年のクラウン生活のすべてをこめたものになった。審査員席からも笑いが聞こえる。結構はまった人もいたようだ。最後「スパシーバ」と初めて声を出したときに客席から拍手。ちょっと涙が出そうになった。よくやった！

23時過ぎ公演が終わったあと打ち上げ。三雲くんの演技に対してシルク・ドゥ・ソレイユから来た審査員や「スノーショー」のグリーンクラウンのボス、フリッシュが絶賛、声をかけてくる。



↑ (左) ユモリーナパレード出発前全員 (右) ユモリーナパレード

翌朝朝飯を食べているときフレッシュがやってきて、昨日の三雲くんの演技についての感想とダメ出しをしてくれた。とにかく素晴らしい演技だったし、状況も全部わかった。やはり審査員のデビッド・シャイネル（シルク・ドゥ・ソレイユの Nouvelle Expérience のメインクラウン）も言っていたが、ゲロを吐くシーンはカットしたほうがいい、それと最後は歌を歌い、マイクと踊って見たらどうかとのアイデアを出してくれる。ただほんとうに良いクラウンを日本から連れてきたと握手まで求められる。これは嬉しかった。

劇場に行くとこのフェスティバルの代表である「マスク」のデリーエフがやってきて昨日の三雲くんの演技を、本当に素晴らしかったと絶賛した。彼の演技力は本当にすごかった、その証拠となるのが写真で、マスクの専属カメラマンが写真を連写で撮って、あとでいらぬものを捨てようと思ったのが見ていたら、カットの表情がみんな違っていたという。素晴らしいクラウンを連れてきてくれてありがとうと感謝される。

31日はコンテスト部門の第二夜「グループB」の公演があった。公演自体は「グループA」よりは内容的にはまとまっていたと思う。ウクライナの女性クラウンのロカが非常に良かった。自分の中ではグランプリ候補。

公演のあと場所を変えて、レストランで審査会議が行われた。最初に審査委員長のクリューコフが候補を述べて、あとは委員がそれに対する意見を述べるということになった。クリューコフ案の中に三雲くんが入っているかどうかドキドキしていたが、彼の口からイオリ・ミクモと名前が出たときは思わず心の中でガッツポーズ。これに対してどんな意見がでてくるかちょっと不安はあるが、自分も冷静に全体を見て三雲くんの演技賞は妥当だと思う。グランプリはドイツの Jelf Hess になったが、三雲くんの演技が一番ではという意見も出た。ドイツからきたサーカスプロデューサービクトリアが、改めてとにかく彼の演技は素晴らしいと絶賛するスピーチをした。おそらく彼女はグランプリは三雲くんへという気持ちがあったと思う。ただ三雲くんの演技賞については他から異論はせず満場一致で決定。ちょっと涙が出そうになる。

4月1日「エイプリルフール」。ユーモアの街オデッサはこの日を祝日として、ユモリーナという大々的な仮装行列を行っている。コメディアーダ出演者も全員パレードに参加し、その後特設ステージで審査発表と受賞パフォーマンスが演じられることになっている。パレード前に三雲くん演技賞受賞のことを報告。ちょっとびっくりしていたようだが、まだ実感はわいていないような感じだった。

表彰式のあと三雲くんはたくさんのパフォーマーから祝福を受けていた。本当に良かった。クリューコフが言っていたが技術で秀でているところがあるわけではない、演出で際立ったところもない、でもその酔っぱらいの演技だけで笑いをとるといことはたいしたものである、これこそクラウンの力ということなのだ。



夜最後のガラショーにはたくさんのお客さんが詰めかけ、会場は超満員。三雲くんは最後から二番にコールされ、また「酔っ払い」を演じたが、フレッシュのアイデアを入れてエンディングを変える。クリューコフが演技賞三雲いおりとコールされたところで握手を求めてくる。そしてクリューコフのダメ出しも取り入れて途中いろいろ変えたのを見て、拍手、「ブラボー」の声も入れる。抜群に良くなったという。フレッシュが急遽用意したアダム「雪が降る」をエンディングで流す。自分のことのように思っ、ここまで演出するために準備してくれたことに熱いものを感じる。終わったところでクリューコフが再び握手を求めてくる。素晴らしいエンディングだという。
←マスク代表から演技賞を授与される。

三雲くんのコメディアーダ演技賞受賞はオデッサの新聞やラジオでも大きく報道されたようだ。ある新聞は「日本から来たアル中が受賞」というユーモアの街オデッサならではの見出しで大きく報じた。

今回のコメディアーダではまたたくさんのクラウンやマイムの演技を見て、笑いのもつ力をまた感じさせてもらったが、やはり自分にとっては三雲くんの渾身の演技と、それに対する評価、反響の大きさということに尽きた3日間だった。クラウンの世界に終わりはない、三雲くんの受賞によってまた何かが始まる、そんな予感がしている。

●ヨコハマ大道芸に出演しました “ぐにゃぐにゃガールズ”（長屋あゆみ）

昨年、実行委員会の山村さんに「コントーションというマイナーな分野で頑張っているあなた達を応援したい」と、経験も実績もない私たちにどーんとヨコハマ大道芸のランドマークタワーというポイントを用意して下さるとお話をいただいたときは心底驚きました。細々と続けてきた活動がひとつ大きく認められたような気がして嬉しかったです。「ただし、ショーは最低でも25分間。それに、幼い子どもを連れた保護者が安心して見られる演出、構成にしてほしい。誰が見ても楽しめる明るく楽しいぐにゃぐにゃショーをお願いします」とのこと。それは、そうですね。が、はじめはどうすればよいのか正直わかりませんでした。コントーション独特の妖しさをどうやって、白昼堂々と誰にでも披露できる「明るく楽しい」ものにするのか？それに、そもそも大道芸フェスティバルのためのショー構成、演出、内容だなんて、何から手をつければよいのやら…。本番まで2ヶ月。「まず、急いでアクロバットを主として大道芸をしているパフォーマーのショーを分析してみなさい」と西田さん



んからは始めから終わりまでご助言、ご指導いただきました。そして、偶然なのですが、沢入国際サーカス学校卒業生で現在はコントーションニストとして海外を拠点に仕事をしている目黒有沙さんがたまたま一時帰国していたため、演出や振り付け、ルーティンの指導、衣装や音楽、装飾など舞台に関するあらゆることを相談できたのも大きな手助けとなり、春や花をイメージしたコントーション・ショーがなんとかできました。出演者8名で臨んだ2日間。おかげさまで特に問題なく、盛況のうちに終わることができました。今後も精進します。←写真 KINO ASA 様

サーカス公演情報

★木下大サーカス

- 鹿児島公演 公演期間 2018年3月11日(日)～2018年5月20日(日)
- 休演日 毎週木曜日と5月2日、5月9日。但し5月3日(木祝)は開演。
- 会場 イオンモール鹿児島特設会場
- 電話 鹿児島公演事務局 TEL099-267-0090 ●ウェブサイト <http://www.kinoshita-circus.co.jp/>

★ポップサーカス

- 愛媛公演 公演期間 2018年3月10日(土)～5月6日(日)
- 休演日 毎週木曜日と4/20(金)、5/2(水)。ただし5/3(木)は開演。
- 会場 松前公園特設大テント ※エミフルMASAKI西隣
- 電話 愛媛公演事務局 TEL089-985-1700 ●ウェブサイト <http://www.pop-circus.co.jp/>

★ハッピードリームサーカス

- 大阪・浪速公演 2018年5月11日(金)～7月2日(月) ●休演日 毎週水曜日
- 会場 和泉市久保惣記念美術館駐車場南側大テント特設会場(府道226号線沿)
- 電話;和泉市公演事務局 TEL0725-53-5015 ●ウェブサイト <http://www.dreamcircus.jp/>

★シルク・ドゥ・ソレイユ創設30周年記念作品 『ダイハツ キュリオス』

古くからサーカス公演で演じられている演目にスピード感を加えたり、頭上を見上げるとまったく同じ世界が正反対で展開されているという斬新な演出など、より一層のハラハラ感を体験できます。

- 東京公演:2018年2月7日(水)～7月8日(日) お台場ビッグトップ
- 大阪公演:2018年7月26日(木)～10月29日(月) 中之島ビッグトップ
- 名古屋公演:2018年11月22日(木)～2019年1月27日(日) 名古屋ビッグトップ(名古屋ドーム北)
- 福岡公演:2019年2月15日(金)～3月31日(日) 福岡ビッグトップ
- 仙台公演:2019年4月～(未定)

公式ウェブサイト <http://www.kurios.jp/index.html>

その他公演情報

★六本木ヒルズ アートナイト 2018

街全体を美術館に見立て、夜を徹してアートを楽しむ一夜限りのイベントです。

深夜の時間帯に実施されるプログラムも多数あります。

- 期間 2018年5月26日(土)10:00～27日(日)18:00
- 開催場所 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
- 入場料 無料。但し、一部のプログラム及び美術館企画店は有料。